

Future of Collaboration through Social Coding

ソーシャルコーディングから考えるコラボレーションの未来

IAMAS - 情報社会特論A

2013/10/11

担当：ドミニク・チェン

Photo # NH 96566-KN (Color) First Computer "Bug", 1947

92

9/9

0800 Antan started
1000 " stopped - antan ✓
1300 (032) MP - MC ~~1.982647000~~
(033) PRO 2 ~~2.130476415~~ { 1.2700 9.037 847 025
conck 2.130676415 9.037 846 995 conck
4.615925059(-2)

Relays 6-2 in 033 failed special speed test
in relay " 10.00 test.

Relays changed
1100 Started Cosine Tape (Sine check)
1525 Started Multi-Adder Test.

1545



Relay #70 Panel F
(moth) in relay.

First actual case of bug being found.
1630 Antan started.
1700 closed down.

Relay
2145
Relay 3370



Grad

- グレ
- Murra
- 1992
- 軍人
- 准将。
- プロ
- ラミ

Grace Hopper Conference

- One of the things I hate about the current state of things is people think of technology as something you use, but not something you create. And one of the things we've convinced our students at Mudd is: If you want to make a difference in the world, and if you want to be creative, and you want to solve puzzles, what could be better than computer science?

Dr. Maria Klawe

- 今の現状に関して私が嫌だなと思うのは、テクノロジーが‘使う・利用する’ものと捉えられがちなこと。自分が‘作り出す’ものとしては、なかなか認識されないこと。だからいつも、うちの学生たちにはこう力説している: 世界を変えたいと思うなら、クリエイティブな人間になりたいなら、そして難問を解決したかったら、コンピュータ科学にまさる学問はほかにないでしょ？



Day2 program

- 10:30~12:00
 - Git/GitHub Trouble Shooting
 - Git Projects: Revision
 - Discussion: what did you feel using Git?
- 13:20~15:00
 - Project Thinking
 - Setting Up Collaborators
 - Fork & Pull Request
 - Think about Critical Thinking
 - What's your own Git/Github would look like?

Review: みなさんのGithubプロジェクトを見ていきます。

Git projects 1/2

- Git/Githubに慣れてきたところで：
 - 自分のプロジェクトの**ドキュメンテーション**をGithubの**README**に記述してください。
- フォーマット：
 - コンセプト／背景: 4, 5行++
 - 関連動向、研究: 2,3個。
 - 自分が新たにやろうとしていること: 4,5行++
- **プロジェクトに関連するファイル**を追加してください。

README / Markdown

- 「書きやすく読みやすいプレーンテキストとして記述した文書を、妥当なXHTML（もしくはHTML）文書へと変換できるフォーマット」
- 色んなサービスが採用している。
 - GitHubは独自の「方言」
 - 若干違う
- サービスを限定しない、汎用的な清書スタイル。



Aaron Swartz (1986~2013)

Git projects 2/2

- 自分のプロジェクトに3人から：
 - コメント(issue)を貰うこと
 - コメントを貰うためには、理解してもらえるドキュメンテーションをしっかりと作ること
 - 提案(pull&request)を受けること
 - 自分の作業ファイルを直接いじってもらってプルリクエストをもらう
- 割り振りはランダムに決めます。

Fork & Pull Request

- 協調作業には二つの主要モデル
 - Fork & Pull
 - 一つのレポジトリを、それぞれがクローンして、独自に開発して、適宜すり合わせる形式。オープンソース等、不特定多数が参加する場合に適している。
 - Shared Repository Model
 - 閉じられた組織（会社、学校、仲間）等で、一つのレポジトリの違うブランチで作業して、適宜すり合わせる形式。
- どちらでもFork & Pull Requestは有効。

Affordance / Invitation

- 自分のプロジェクトの、見る人への**アフォーダンス／誘因性**を意識する
 - どうやって興味を持ってもらえて、どうやって参加してもらえる？
- **コラボレーション経路**のデザインを行ってください。
 - 最終日の講評のディスカッションテーマにします。